

今月の一言 NO.218

キーワード：改善とは継続の結果

行動は習慣となって実力となる。たとえば、どんな企業でもその場限りの改善はできる。しかし、力のある企業が改善を実力化することができるのに対し、力のない企業は改善を結果に生かすことができない。企業の力とは「当たり前のことを徹底的に継続する力」である。

そもそも力のない企業には現場に顕著な特徴がある。

現場に古びて汚れたスローガンが張られたまま放置されている。何も置かれていない場所に、置き場を示したプレートが残っている。明らかに使われていない工具や治具がある。これらは、かつて何度か行われた改善の名残だ。

それぞれ、そのときは改善に必要だった物、あるいは改善の痕跡である。

しかし、その時限りで終わっているため、現在は用途不明の物となっているのだ。いっときでも改善しようとしたことは、これら遺物を見ればわかる。同時に改善が継続しなかったこともこれらの遺物が如実に語っている。

力のない企業は、せっかくの改善を維持する管理する習慣がない。

改善は一度でもやれば、それで改善は完全と勘違いをしている。改善とは継続して実行し、それが習慣となって定着したときにはじめて改善が成立したといえるのだ。

油断をすれば後退してしまうのが改善である。改善とは坂道を車を押して上るようなもので、途中で手を離せばたちどころに後戻りをはじめめる。力のある企業は、このことがよくわかっているので、一度改善をすればそれで完成などと、脇の甘いことは考えないのだ。

改善の本質は「当たり前のことを徹底的に継続すること」である。

著書：新将命の社長の教科書 著者：新将命

今日より明日は、成長！

令和2年2月25日

さいのう とおる

追伸：お陰様で2月22日で創立68年目を迎えました。これからも前進！